

胸部腫瘍の臨床病理学的因子および予後の検討

1. 臨床研究について

九州がんセンターでは、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特性を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。このような診断や治療の改善の試みを一般に「臨床研究」といいます。その一つとして、九州がんセンター及び共同研究施設では、現在胸部腫瘍の患者さんを対象とした「臨床研究」を行っています。

今回の研究の実施にあたっては、九州がんセンター倫理委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、倫理委員会の承認日より令和6年3月31日までです。

2. 研究の目的や意義について

現在、日本における胸部腫瘍、とりわけ原発性肺癌の死亡率は増加傾向にあり、癌死亡の第一位となっています。しかしながら、早期肺癌手術症例の術後5年生存率は70%にしか過ぎず、約30%の患者さんが再発するとされています。この再発リスク因子・予後因子の模索・同定は、重要な課題です。

一方、進行・再発例には治癒可能な治療法がなく、新たな治療法が望まれ、近年多くの分子標的薬や免疫療法が開発されています。分子標的薬は、特定の肺癌の種類（EGFR 遺伝子変異・ALK 融合遺伝子・BRAF 遺伝子）で発癌と強い関連を持っている物質に直接働きかけ細胞増殖を抑制します。また、自身の免疫作用と癌細胞との関係性に関与するPD-1・PD-L1・CTLA-4を阻害することで、自身の免疫作用が活性することで癌細胞を排除します。しかし、その治療効果は限定的であり、その治療効果予測因子の探索は今後も重要な課題と言えます。そういった因子を同定することで、新たな治療法の開発に大きく寄与する可能性があり、肺癌診療にとって大きな意義があります。

また、肺癌だけでなく胸部腫瘍全般においても切除困難な場合が多く、薬物療法が重要な役割を占めており新規治療薬の開発が期待されています。

我々は、この機序の解明および新規創薬を目指し、この臨床研究を行っています。

3. 研究の対象者について

九州がんセンターにおいて1972年4月から2019年7月31日までに胸部腫瘍の手術を受けられた方を対象に致します。

対象人数は九州がんセンターで、肺病変を含む胸部腫瘍の手術を受けられた患者さん約5000人を想定しています。

研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、事務局までご連絡ください。

4. 研究の方法について

九州がんセンター及び共同研究施設において切除された標本を用い、遺伝子異常や特定のタンパク質の初源を調べます*。その結果を含め、患者さんの情報(①臨床所見(年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報(自覚症状を含む現病歴、既往歴、薬剤投与歴、生活歴(喫煙歴、飲酒歴)、家族歴、職業歴)、PS、臨床病期)②血液所見(WBC, WBC分画, RBC, Hb, Ht, Plt, TP, Alb, AST, ALT, LDH, CHE, BUN, Cre, T. Bil, D. Bil, ALP, γ -GTP, AMY, CPK, CRP, T. Chol, TG, HDL-C, LDL-C, Na, K, Cl, Ca, P, KL-6, SP-D, SP-A, CEA, SCC, NSE, CYFRA, proGRP, FDP, D dimer, TAT, HBs抗原, HBs抗体, HBe抗原, HBe抗体, HBe抗体, HCV抗体, TSH, FT3, FT4, マイコプラズマ抗体, 百日咳抗体, プロカルシトニン, 抗MAC抗体, β -D-グルカン, クリプトコッカス抗原, トリコスポロン・アサヒ抗体, クラミジア・ニューモニエ IgG・IgA・IgM抗体, アスペルギルス抗原, カンジダ抗原, T-SPOT など)、抗癌剤感受性試験 ③胸水検査所見(WBC, WBC分画, RBC, Hb, Ht, Plt, TP, Alb, LDH, CEA, SCC, CYFRA, ADA, glucose など)④画像所見(胸部単純X線写真、CT画像・報告書、MRI画像・報告書、各種核医学検査画像・報告書(PET-CT、骨シンチグラフィ、肺血流シンチグラフィ、SPECT など)、気管支鏡検査、心臓超音波検査所見、頸部血管超音波検査所見、血管造影検査など)⑤病理学的所見(病理組織学的診断) ⑥胸水細胞学的所見 ⑦遺伝子検査所見(p53, K-ras, EGFR, ALK, BRAF, ROS1, MET, PD-L1を含む) ⑧治療(手術術式、術後治療の有無/投与薬剤・放射線治療) ⑨再発の有無、予後)との関係を調べることにより、どういう患者さんの場合に手術の成績が良くなるのか、また再発した際の治療に対して効果が高い患者さんと効果の低い患者さんを比較し、原因を考察します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。また、他施設に試料の提供をする場合、胸部腫瘍の手術検体または手術検体から作成した標本スライドと臨床情報を匿名化し、郵送または手渡しで提供いたします。

*遺伝子解析によって、二次的所見(生殖細胞系列遺伝子変異)を認めることは当研究ではないと考えますが、ご希望があれば結果の情報開示を行います。また、結果によっては、その後に遺伝子カウンセリング(自費診療となります)を受けることもできます。

5. 個人情報の取扱いについて

研究対象者の病理組織などの試料、測定結果、カルテの情報をこの研究に使用する際には、研究対象者のお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。研究対象者と研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、研究対象者が特定できる情報を使用することはありません。

この研究によって取得した情報は、九州がんセンターの研究責任医師である呼吸器腫瘍

科医長 山口正史の責任の下、厳重な管理を行います。

6. 試料や情報の保管等について

〔試料について〕

この研究において得られた病理組織等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院 医学研究院 消化器・総合外科分野において、同分野教授 森 正樹責任の下、5年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

〔情報について〕

この研究において得られた研究対象者のカルテの情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院 医学研究院 消化器・総合外科分野において、同分野教授 森 正樹の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

また、この研究で得られた研究対象者の試料や情報は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えています。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理委員会において審査し、承認された後に行います。

7. 利益相反について

九州がんセンターでは、よりよい医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのための資金は公的資金以外に、企業や財団からの寄付や契約でまかなわれることもあります。医学研究の発展のために企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者さんの利益と研究者や企業等の利益が相反（利益相反）しているのではないかとという疑問が生じる事があります。

本研究に関する必要な経費は九州大学医学部部局運営費でまかなわれますので、研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

九州がんセンターでは当院にて研究にかかわる研究者の利益相反について、九州がんセンター倫理委員会にて審議・管理されています。

8. 研究に関する情報や個人情報の開示について

この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の研究計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

また、ご本人等からの求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方は、ご連絡ください。

9. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

	施設名	研究責任者の職名・氏名	役割
共同研究施設	① 九州大学病院	呼吸器外科 診療講師 田川 哲三	試料・情報の収集・解析
	② 九州医療センター	呼吸器外科/統括診療部長 竹尾 貞徳	試料・情報の収集
	③ 九州がんセンター	呼吸器腫瘍科/医長 山口正史	試料・情報の収集
	④ 済生会福岡総合病院	外科 /部長 米谷 卓郎	試料・情報の収集
	⑤ 北九州医療センター	呼吸器外科 /副院長 永島 明	試料・情報の収集
	⑥ 大分赤十字病院	呼吸器外科 /院長 本廣 昭	試料・情報の収集
	⑦ 松山赤十字病院	呼吸器外科 /部長 横山 秀樹	試料・情報の収集
	⑧ 広島赤十字・原爆病院	呼吸器外科 /副部長 竹中 朋祐	試料・情報の収集
	⑨ 別府医療センター	呼吸器外科 /院長 矢野 篤次郎	試料・情報の収集
	⑩ 福岡病院	外科 /副院長 上田 仁	試料・情報の収集
	⑪ 製鉄八幡	呼吸器外科 /部長 塚本 修一	試料・情報の収集

10. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、九州がんセンター責任医師あるいは下記事務局までご連絡ください。

当院責任医師 担当者：山口 正史
国立病院機構九州がんセンター 呼吸器腫瘍科 医長
〒811-1395 福岡市南区野多目 3-1-1
〔TEL〕 092-541-3231 (代表)

事務局 (相談窓口) 担当者：
九州大学大学院医学系学府消化器・総合外科学分野 大学院生 小野 雄生
連絡先：〔TEL〕 092-642-5466 (内線 5466)
〔FAX〕 092-642-5482
メールアドレス：yono@surg2.med.kyushu-u.ac.jp